CARLOS MUÑIZ（カルロス・ムニィス）

ENSOU 円相

Café & Galería PARADA

2012年 1月20日(金)～26日(木)

スペイン・マドリードの彫刻家
カルロス・ムニィスさん。
吉祥寺 PARADA(パラーダ) にて
ジュエリー作品展が開かれました。

有名舞踏家の来場に喜ぶ、
カルロスさんと根岸文子夫人。
根岸さんもアーティストとし
て活躍中（コラージ 2008 年
4 月号でご紹介しています)。

スペイン出身のカルロスさんは、エジプトやイスラエルでの暮らしインスパイアされ、ジュエリーを手掛けるようになったそうです。古代からジュエリーの果たしてきた役割にひかれていったと語るカルロスさん。「身に付ける人との相乗作用によって力を与えてくれる」そうです。

カリブの海賊の遺した宝の地図と隠し場所を記したバングル。スペインの黄金時代。南米からスペインへガレオン船で運ばれる銀やスパイスを襲ったのが「パイレーツオブカリビアン」にも登場する海賊たちでした。

今回のテーマ「円相」は、長い経験を経て原点に戻ってきた感覚から名づけられたそうです。世界をめぐってきたカルロスさんの変遷を垣間見るような、バラエティー豊かな作品が並びました。
このリングは、京都で印象に残った庭園の飛び石をモチーフにしています。手仕事をするなかで湧きおこったイメージを、銀や金、宝石、真珠などを使い、自在な形にしていきます。

太古の昔から、Amulett - アムレット（お守り）として、自然の猛威から身を守ると信じられてきたジュエリー。装身具や身分を示す道具として使われる以前から、人の歴史とともに身に付けられてきたのです。

海、太陽、月といった自然のパワーをイメージさせるデザインリング。「円相」は禅の思想からきた言葉で、心を映す鏡という意味もあります。

中世の頃を思い起こさせる素朴な味わいの金の指輪。ジュエリーは身に付けられる財産としても大切な役割をもっていました。

実際に身に付けることで、その良さは初めてわかります。ジュエリーは人と共にある。カルロスさんのあたたかな人柄に包み込まれるような展示会でした。